

認知症疾患医療センター通信

令和4年3月10日発行 第12号

おれんぢコラム

認知症について
様々な情報をお伝えします

認知症看護 認定看護師 加藤猛雄



皆様は、長谷川式簡易知能評価スケールというものをご存じでしょうか？これは、認知症の疑いや認知機能の低下を早期に発見できるスクリーニングテストです。このスクリーニングテストを開発した長谷川和夫先生が令和3年11月13日に亡くなりました。先生は、認知症医療の第一人者であるだけでなく、自身が認知症であることを公表していました。著書の中に『ボクはやっと認知症のことがわかった』という本があります。これは、認知症の専門家からの視点と、認知症の人の視点からの貴重な体験が綴られています。著書の中で先生は、「認知症は固定されたものではなく、調子がよい時もあるし、そうでない時もある。調子のよい時は色々な話しも相談ごとなどもできます」と話されています。認知症の人は内面に変化が生じますが、外見には変化がみられないことで、他者から病気に対しての理解が得られにくい現状があります。しかし、周囲の人が病気を理解し、日常生活を支えることで、認知症の人は安心した生活を送ることができます。認知症看護に携わる者として、認知症の人をよく観察し、調子のよい時は出来ることを見守り、困っていることは何かを一緒に考え続ける姿勢を持つことが大切だと思いました。この本は、認知症に関わる全ての人にとって、大変参考になる本だと思い紹介させていただきました。最後に、長谷川和夫先生が安らかに眠られますようお祈り申し上げます。



『ボクはやっと認知症のことがわかった』

長谷川和夫、猪熊律子

KADOKAWA

2019年12月27日刊行

介護、健康、医療、福祉 高齢者の総合相談窓口

地域包括支援センター

地域包括支援センターは、市町村が設置している相談窓口です。

高齢者とその家族、地域に暮らす方などなたでも利用できます。

保健師、主任介護支援専門員、社会福祉士などの専門職員が配置されており、さまざまな相談に対応しています。例えば…

- ・介護、健康、医療、福祉、生活などの相談・支援
- ・認知症の相談・支援
- ・介護予防サービス計画の作成、サービス利用の連絡調整
- ・高齢者虐待の予防や対応、権利擁護（※1）のための情報収集・提供
- ・関係機関との連携や、介護支援専門員（ケアマネジャー）への助言

高齢者が住み慣れた地域で健やかに生活を送れるように、高齢者の生活を総合的に支えるのが地域包括支援センターの役割です。ご自宅への訪問も対応し、秘密は厳守されます。ご相談は、お住いの地域を担当する「地域包括支援センター」へお問い合わせください。

（※1）生活するうえで判断能力が不十分な人の権利と財産を守るしくみ

☆つくしが丘病院認知症疾患医療センターでは認知症に関する専門的知識を持った看護師や精神保健福祉士による専門相談をおこなっています。

※要予約、相談無料

☆受診予約、その他相談お問い合わせ

月～金（土日祝、年末年始は休み）、9時～16時

【センター直通】017-788-2988



発行者：青森県立つくしが丘病院認知症疾患医療センター運営チーム
〒038-0031青森市大字三内字沢部353-92
電話 017-788-2988（センター直通）